



つづきの図書館

柏葉幸子作 講談社

「本をさがしてもらいたいのではない。青田早苗ちゃん
のつづきが知りたいんじゃない」

図書館の司書としてつとめることになった山神桃さんは、
本さがしではなく、人さがしをたのまれた。書架のむこう
にいた、えらそうな声の主は、金色の王冠をかぶり白いパ
ンツをはいた、はだかの王様だった。

そして絵本の中から出てきたという。

「早苗ちゃんのつづき」という気
がかりがなくなれば、自分の本にも
どれるような気がするという王様の
ために、桃さんの活やくが始まった。

